



菅生学園報

第10号 2022年 9月号



理事長メッセージ



理事長
島田 幸成

＝ 教育環境整備の重要性について ～初等学校の遊具設置から思うこと～ ＝

暑さもまだ続き、コロナ禍も終息にはまだ時間がかかるようです。関係の皆さんのご尽力に心から感謝申し上げます。さて、初等学校グラウンドの木製遊具に滑り台が増設されたのを皆さん気づいたでしょうか？

以前のこととなりますが、法人本部理事長室が高校にあり、その後、学びの城に移設したときのことです。2階の理事長室から初等グラウンドを見ると、鉄棒があるのですが、黄色い使用禁止のテープが張られ、使えない状況になっていました。鉄が錆びて安全上の理由からこのままにしているとのことでした。これではまずいと思い、手直し安全確認をして使えるようにすると、児童の皆さんは休み時間、鉄棒で楽しそうに遊んでいました。鉄棒で遊んでいると知らず知らずのうちに手の力が強くなり、良い運動になります。

また、近くにジャンルジムとうんていがあるのですが、当時、そこで遊んでいる児童はあまりいませんでした。なんとかして、活性化できないかと考えていたところ、その間に、楽しそうな遊具を設置すれば、ジャンルジムやうんていの利用頻度も高まるのではとの専門家の意見をいただきました。意見を踏まえ、遊具を設置したところ、遊具に誘われ、ジャンルジムやうんていの利用頻度も高まりました。

遊具は菅生の森の風景に溶け込む多摩産材を使った木製にして、登り棒やボルダリング機能などもつけたので、これも好評で休み時間はこの遊具で遊ぶ児童が増えました。児童たちは以前にも増して活動的になっているようでした。なお、後にこの遊具の名前を児童からの公募で「遊びの城」と命名し、看板がつけられています。

こうした遊具など利用促進、工夫次第で児童たちの活動量や、体力増強もずいぶん違うのでは思います。教育環境を整備充実することは、児童生徒にとって極めて大事なことだと改めて思ったところです。

今回、遊具の塗装塗り直しに加え、この遊具に滑り台を増設しました。児童たちは滑り台を利用するために、この遊具を上がったたり、そして、降りたり、足の力もつきます。遊びながら、自然と体力をつける。一石二鳥です。里山の自然環境に抱かれて育てている菅生学園の児童生徒の皆さん。伸び伸びと充実した学校生活を送ってほしいと思っています。



菅生のあゆみ



副理事長
島田 洋子

＝菅生学園の生い立ち＝

菅生学園の歩みを振り返るとき、設立者は前理事長島田久ですが、菅生高校設立にあたり、多くの方にご指導、ご協力をいただいたことに感謝をしなければなりません。

時は昭和56年にさかのぼりますが、この地域に私立の高校がなかったため、島田久には高校を設立したいという願いがありませんでした。その矢先に、あきる野市にある東京薬科大学から土地売却の話があり、「教育事業に使っていただけるのなら売却します」と快諾してくださいました。後に菅生学園の経理を務めた川瀬恭三氏に久の姉は「久が大変なことを考えているが、ぜひ私も協力したい。」と話していたそうです。その後、この高校設立計画は、菅生の地域の方々のご意見・ご理解を得て発展していきました。高校時代の同級生で現・菅生学園理事の橋本健司氏も、初めは「そんな大きなことを！」と驚いていましたが、久のあまりにも真剣な願いにやむなく協力せざるを得なくなったそうです。もう一人の協力者は、法律に詳しい恩田至弘氏で、高校設立関係の難しい事務的な書類の処理をし、設立に向かって協力をしてください、当時真夏の暑さにもめげず、二人で毎日のように都庁や各役所に通ってくれました。昭和56年に高校設立準備会事務所を開設し、いよいよ昭和57年5月には学校建設用地約57,600平方メートルの造成工事が着工となりました。多くの苦難を乗り越え、また、建設・建築の方々の大きな力のもとに昭和57年7月1日には、第一期の校舎が着工となり、昭和58年4月8日には、第一回入学式を東海大学総長松前達郎ご夫妻の出席のもと挙行され、400名が入学を許可されました。その後新校舎も落成し、地元の方々、教育関係者、市町村の代表の方々など500名の皆様方とともに竣工を祝い、喜びとともに分かち合い、ここから菅生学園の歴史が始まりました。菅生高校は、現在、初等、中等を含む一貫校へと成長し、教育内容も徐々に充実し、クラブ活動も他校に比べ上位に位置するほどの成長を見せてくれるようになりました。

「自然が教科書」の一貫教育の目標を掲げ、理事長、校長並びに現役の教職員、そして子どもたちをしっかりと支え、菅生学園の「ゆたか」な教育を見守ってくださる保護者の皆様に心から感謝しつつ、今後も一歩一歩いい方向に成長していくよう、努力いたします。今後ともよろしくお願いたします。

学園トピック (1) 菅生学園教職員研修会

8月30日(火) 9:00~14:30 幼・初・中・高の全教職員を対象とした「菅生学園教職員研修会」をコロナ感染防止対策を万全にしたうえで、学びの城で開きました。

内容は以下の通りです。

- 1、理事長講話「菅生の将来を見据えた経営課題」
- 2、講演「菅生の里山を活かした環境教育」
講師；東海大学教養学部人間教育科教授 藤吉正明氏
- 3、実践報告
初等学校「ゆたかの時間」小松佑将教諭
中等部「エコクラブ活動」井上松雄教頭補佐
高校「自然科学部」伊藤 慎教諭
- 4、一貫教育取組具体化検討会議(部会)
教務部会、生徒指導部会、広報部会、国際交流部会、研究部会

この研修会は年一回8月末に開いています。(一昨年は中止、昨年は午前中のみ)全教職員が一堂に会す機会はこの時しかとれず、貴重な時間です。本来は16:30まで研修します。まず、理事長が日ごろの教職員の職務遂行に対して感謝と労いの言葉をかけ、学園経営の現状と今後の課題を話しました。

続いて今回は、初等学校と中等部で直接ご指導いただいている藤吉先生のお話を伺いました。菅生のこの地域は東京都の地形の台地から丘陵地に入るところに位置しており、その特色や、人と自然の生み出す生物多様性を維持することの意義を話されました。そしてその生物の多様性を高める環境教育の実践活動は、SDGsの考え方と結びつき、衣食住を中心とした「生活教育」から自然探究(調査活動)へと発展させる「科学教育」であると述べられました。

かつては「自然」から自然に学んでいたのですが、今は意図的に学ぶ機会を創り、子どもたちに「自然」から受けている恩恵を理解させ、「自然」を大切にしていける心を培うことが重要です。そうした中で生命力豊かな人間としての貴重な資質が備わっていくものと考えます。初等・中等・高校の実践報告は、菅生の自然環境を活用した、菅生ならではの教育であり、その教育を受けられる子どもたちは幸せだな、と改めて強く感じました。

(常務理事 和智紀朗)



島田理事長講話



東海大学教養学部人間教育科
藤吉正明教授



初等学校 小松佑将教諭



中等部 井上松雄教頭補佐



高校 伊藤慎教諭



藤吉教授の話に熱心に耳を傾ける教職員



午後からは各部会が行われました

学園トピック (2) 「学びの城の美術展 2022」

コロナ禍の影響で昨年、一昨年と中止を余儀なくされた菅生学園初等学校、菅生高校中等部との合同美術展「学びの城の美術展 2022」が3年ぶりに8月26日(金)～28日(日)の3日間にわたって立川高島屋SCで開催されました。

今年は、NHKの連続人形劇「プリプリ物語」の人形作家であり、学びの城のモニュメント「森の調べ」の作者・友永詔三さんと菅生学園初等学校・菅生高校中等部とのコラボレーション企画として、「プリプリ物語」に出てきそうな新しいキャラクターを考えて、中等部美術クラブは人形を、初等学校1年生はペーパークラフトの人形を制作していました。

初等学校、中等部ともに様々な表現手法に挑戦しており、力作ぞろいに来場した皆さんも驚いていました。

初等学校の児童は、一人ひとりが個性的で、のびのびとした作品を生み出していました。初等学校の展示には、野焼きに挑戦して作った菅生土器と、それを題材にして作ったフェイクニュース新聞が展示されていました。社会科との教科横断の取り組みの一環で始まった創作活動だそうです。

中等部の1年生の運動靴のスケッチは恒例の創作活動です。また、3年生は『戦争と平和』をテーマにした一コマ風刺漫画にも挑戦していました。こうした作品からは、創作活動を通して、成長していく生徒の姿が見えるようでした。

友永詔三さんと菅生学園初等学校・菅生高校中等部とのコラボレーション「プリプリ物語」で実際に使われた人形も展示されました



初等学校の児童はiPadを使ってこまどりアニメの制作にもチャレンジしていました



菅生高校中等部の生徒は作品を通して自分自身や自分の考えを表現していました



多摩学院幼稚園

園長メッセージ



仲野 三千代園長

今年度、コロナ禍3年目の中、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行いながら思い出作りを沢山するため、園児と保護者の方々全ての皆様の笑顔を見たく親子体験型等、様々な工夫をして実施しています。この時期を一緒に乗り切って参りましょう。

一人ひとりの子ども達が、自分の足で歩いていけるよう、子どもの将来を見据えた接し方と教育を大切にしてきました。知的能力である「認知能力」と、自制心や協調性などの潜在的能力を意味する「非認知能力」をバランス良く身につけていくことも大切です。特に「非認知能力」の重要性は幼児教育において世界的に注目されています。

園児はこれから身につけられる豊かな可能性の学びに自分という色の色合いを深め、自分らしい良さがどんどん花開く様、質の高い『教育・保育』を実践してまいります。

教育だけに留まらず、現場で働く保育教諭、保育士が明るく保育ができる環境を作ることがより質の高い保育環境を作る鍵となることを信じ、保育士の支援、保育士の立場や仕事の理解など様々な活動を積極的に行っています。

引き続き、教職員は、笑顔と愛情をもって、教育・保育に専念してまいります。

トピック

◇7月20日から22日の3日間、夏祭りが行われました。1日目は、トイレットペーパーで作るかき氷や紙粘土で作るフラペチーノなど、各クラスで制作をしました。完成したのを見て子どもたちはとっても嬉しそうでした。2日目は、年長組のお店屋さん和盆踊りです。浴衣や甚平で登園し、夏らしさを感じていました。お店屋さんは保護者を招いて行い、元気いっぱい「いらっしゃいませ」と「ありがとうございました」の声でとても賑やかに楽しく行うことが出来ました。3日目は、先生達からのゲームに挑戦しました。5つのゲームコーナーで頭や体をフル回転!どのコーナーも大盛り上がりでした。最後には、沢山のおみやげを持ち帰り、子ども達の笑顔あふれる3日間となりました。

◇羽村市観光協会主催「夏の花いっぱいコンクール」学校・幼稚園・保育園の部にて優秀賞をいただきました。羽村市から花の苗をいただき、5月末に子ども達がプランターに植えました。夏の日差しをたっぷり浴びて、大きくなり立派な花が咲きました。

園児もお花も夏のパワー全開です

お店屋さん大繁盛の夏祭り



園児たちが育てて
立派な花が咲きました



活動報告

4 / 1	2号児保育始まり	5 / 12	遠足(園外保育)	6 / 16	お誕生日会
4 / 6	1学期始業式	5 / 16 ~ 26	年長面談	7 / 2	七夕仲良し会 (保護者参観)
4 / 12	交通安全教室	5 / 27	開園記念日		お誕生日会
4 / 14	父母の会総会	6 / 1	内科健診	7 / 13	1学期終業式
4 / 15	対面式	6 / 6	避難訓練引き渡し	7 / 15	年長お楽しみ会
4 / 21	お誕生日会	6 / 6 ~ 17	特色保育参観日	7 / 19	夏祭り
4 / 22	こいのぼりマラソン	6 / 10	歯科健診	7 / 20 ~ 22	夏期保育
4 / 28	多摩学フェスティバル	6 / 13	水遊び始まり	8 / 24 ~ 26	

活動予定

9 / 1	2学期始業式	11 / 7 ~ 9,	保育・特色参観日	12 / 3	クリスマス会
10 / 22	第53回運動会	12		12 / 14	お誕生日会
10 / 24	マラソン始まり	11 / 10	サイクリング遠足	12 / 15	もちつき体験
10 / 26	秋の多摩学院 フェスティバル	11 / 16	お誕生日会	12 / 19	2学期終業式
11 / 3	年長組みかん狩り	11 / 21	交通安全教室	12 / 28	2・3号児保育修了
			勤労感謝の集い		

菅生学園初等学校

校長メッセージ



下平 孝富校長

＝ 「人間是宝」の時代到来！？ ＝

夏休み中は静かだった校舎内が、今は元気いっぱいの児童の声でまるで別世界になっています。この時期には自分の小学校時代を懐かしく思い出します。クーラーも無く蚊帳の中での寝苦しい夜やうるさいくらいの子のセミの声、眠い目をこすりながら行ったラジオ体操など、古き良き昭和の風景です。

小学生の頃を思い返すと、運動神経抜群の者、手先の器用な者、かぶと虫の飼育が得意な者、魚釣りの穴場に詳しい者など、何か得意分野を持っていた友人の顔が浮かびます。私見ながら、20世紀の教育では一定のレベルの均質な人間を育て、目指すべき価値観も固定的だったような気がします。

一方21世紀はVUCA時代。各人が得意分野の知見を持ち寄り解決していかねばならない時代です。そんな時代こそ「人間是宝」の時代だと感じます。すなわち、それぞれ得意分野を持ち、それを活かして社会に貢献する時代。児童諸君には各々が得意分野を見つけて、その力を伸ばしてほしいと願う今日この頃です。

トピック

- ◇8月1日、第89回NHK全国学校音楽コンクールに出演しました。コロナ禍で3年ぶりのコンクールでしたが、2年生3名、3年生3名、4年生3名、5年生3名、6年生4名の計16名がきれいな歌声を響かせました。合宿も行い、大会に臨みました。
- ◇8月14～16日の3日間で福島県のブリティッシュヒルズに英語学習に行ってきました。広大な英語村といった素晴らしい環境の下、本物の英語に触れ、子どもたちはますます英語に興味関心を持ったようです。来年のオーストラリアに期待が膨らみます。

全力で取り組む児童の姿がまぶしい日々です



活動報告

4 / 6 始業式	5 / 28 運動会	7 / 16 スクールトライアル (募集イベント)
4 / 7 入学式	6 / 3 東初協一斉研修	7 / 19～21 グリーンスクール (山中湖・3年生)
4 / 11 ～16 保護者会週間	6 / 11 授業参観・螢の夕べ	7 / 26～29 海の生活 (南房総・4・5年生)
4 / 18 ～22 個人面談	6 / 18 オープンスクール	7 / 31 スガニア・ネイチャー (募集イベント)
4 / 18 写生会	6 / 21 ～24 6年生修学旅行 (京都・奈良)	8 / 14～16 ブリティッシュヒルズ 英語学習 (福島県・4年生以上希望者)
4 / 23 1年生を迎える会 学校説明会	7 / 2 スガニア・イングリッシュ (募集イベント)	8 / 23～26 サマースクール(全児童)
5 / 14 父母の会総会	7 / 7	
5 / 21 学校説明会 (アフタースクール)	7 / 14 個人面談	
	7 / 15 終業式	

活動予定

9 / 1 第2回避難訓練	10 / 26～28 6年生校長面談	11 / 26 マラソン大会
9 / 2 身体測定	10 / 29 6年生漢字検定	12 / 8～14 個人面談
9 / 3 入試説明会	10 / 31 ハロウィーンディ	12 / 16 終業式
9 / 4 首都圏模試	11 / 1 第1回入学試験	12 / 19～21 スノースクール (宿泊・3年)
10 / 1 菅生祭	11 / 4 学力テスト(1～5年生)	
スガニア・	11 / 5 3年生保護者会	
プログラミング	11 / 12 第2回入学試験	
	11 / 16 縦割りウォーキング	
10 / 7 6年生三者面談		

菅生高等学校中等部

校長メッセージ

下平 孝富校長

＝安身立命（あんじんりゅうみょう）～無欲より少欲を目指す～（道元）＝

夏休み明けに登校した生徒諸君を見ると様々だ。クラブ活動で日焼けして精悍な表情の者、生活が不摂生だったのか眠そうな表情の者、ちょっと休み前よりも身体大きくなった者等変化が著しい。充実した休みの思い出になっていれど願う。自分の中学時代の夏休みの思い出は、中学1年の夏、遊び呆けて、あわてて8月31日深夜までかけて作った九州の立体模型だ。昭和40年代の話だ。

さて、この休み中に冒頭の言葉に出会った。道元は「安心」を「安身立命」と表現したという。「あらゆるものが変化する時代、欲だけ追い求めても心の安定は得られない。我が身を安らかにし命を全うするべき。」と彼は説いている。

この言葉は何事にも当てはまると感じる。あれもこれもと手を出すよりもここだけはという一点に焦点を絞り追究する方が良いのではと感じる。現在準備中の一貫進学コースも「6年間を有効に生かし東海大への進路を確実にする」点をしっかりと整えるべきなのかもしれない。

トピック

昭島市民会館（KOTORIホール）にて芸術鑑賞教室が実施されました。高校1年生と合同で、「爆笑バラエティ学校寄席」という題目で5組の方が出演しました。三味線を用いたユーモアある浪曲、コマを使った曲芸、真打の方から生徒や教員がレクチャーしていただいた落語、マイケルジャクソンさんのそっくりダンス、パペットをつかったコミカルな落語は、どれも普段はあまり見聞きしないものばかりなので楽しく盛り上がりしました。

生徒の落語体験も行われました



活動報告

4 / 6	始業式	5 / 7	学校説明会	6 / 16	芸術鑑賞教室
4 / 7	入学式	5 / 12	自然観察教室	6 / 17～20	授業公開
4 / 12	新入生歓迎会	5 / 25～26	中間試験	7 / 5～8	期末考査
4 / 13	スポーツテスト	6 / 1	写生会	7 / 16	オープンスクール
4 / 25	3年生校外学習（羽田）	6 / 3	生徒総会	7 / 19	全校集会
4 / 25～26	2年生校外学習（鎌倉）	6 / 4	学校説明会		
4 / 26～28	1年生校外学習（三保）	6 / 11	理科実験教室		

活動予定

9 / 1	避難訓練	10 / 13	開校記念式典	12 / 1・2	中間試験
9 / 5～9	3年生北海道修学旅行	10 / 18・19	中間試験	12 / 17	音楽祭
9 / 14	3年生実力試験	10 / 21	1年生郷土学習	12 / 18	入試体験教室
9 / 17	学校説明会	10 / 24	2年生実力試験	12 / 19	全校集会
9 / 24	校内主張大会	10 / 26	生徒会役員選挙		
	理解実験教室	11 / 5	学校説明会		
9 / 28	スポーツ大会	11 / 9	夢育て講座		
9 / 29	学期更新式	11 / 16	2・3年生警察講話		
10 / 1	学習発表会	11 / 18	生徒総会		
10 / 8	オープンスクール	11 / 26	入試体験教室		

菅生高等学校

校長メッセージ



峰岸 英仁校長

= ステレオタイプでない新たな視点 =

今年の1年生サマースクールの最終日には、解決されるべき問題とその解決案がグループごとに、プレゼンテーションされました。身近な学校生活における問題から社会問題に至るまで多岐にわたる内容でした。その中に、男女平等の問題を取り上げた女子のグループがありました。その主張は、男性がもっと尊重されるべきと訴え、「親権における女性の有利さをなくす」「女性にあって男性にないサービスをなくす」「女性だけが不利なのだという偏見をなくす」と提案し、それがLGBTQの理解にもつながると説明していました。

一般的には、ジェンダーギャップ指数などから女性に対する処遇のより一層の改善が必要だとのステレオタイプの主張が多いなかで、女子グループからそれとは異なる視点の考えが提示されたことを、とても新鮮で遅く感じました。本校は、調和のとれた考え方ができる賢さを身につけるために、様々なものの見方・捉え方ができることをめざしていますので、このように新たな視点が増えていくことを願っています。

トピック

高校トピック 夏季休暇中にクラブ活動で主だった戦績です。硬式野球部 第104回全国高等学校野球選手権大会 西東京大会 7月10日(土)～7月31日(日) 準優勝 東海大学菅生高等学校 高校総体結果 弓道部 予選敗退 硬式テニス部 ダブルス ベスト8 卓球部 シングルス 3回戦敗退 サマースクール 第一学年が7月20日～22日の日程で行いました。今年度はエナジード教材を使用し、自らの問題を発見して解決する方法を考え、その内容をクラスの生徒達にプレゼンテーションして解決方法を共有するプログラムを取り入れました。いろいろな方法で自ら考えて問題を解決する実行力や行動力を身に着けるきっかけになりました。

弓道部 インターハイ報告 8月6日から徳島県徳島市で行なわれた「躍動の青い力 四国総体 2022」弓道競技に出場してきました。結果はインターハイ独特のムードに飲まれ、実力を発揮できず、予選敗退でした。しかし、この大会に出場した選手にとっては、今後の人生においてとても貴重な経験、思い出が作れたのではないかと思います。今後も活躍できるように部員一同練習に励んでいきたい。応援よろしくをお願いします。

学習に部活に一人ひとりが全力投球する夏になりました



活動報告

- | | | | |
|---------------|---------------------|---------|----------|
| 5 / 9～14 | 1 学年校外学習 (婦恋研修センター) | 7 / 4～7 | 定期考査B |
| 5 / 14 | 2 学年保護者会 | 7 / 18 | オープンスクール |
| 5 / 24～27 | 定期考査A | 7 / 19 | 全校集会 |
| 5 / 30～6 / 18 | 春季教育実習 | | |
| 6 / 11 | 3年GTEC | | |
| 6 / 16 | 芸術鑑賞教室 | | |
| 6 / 25 | 授業公開 | | |

活動予定

- | | | | |
|------------|------------------------|----------------|-------------|
| 9 / 10 | 第二回オープンスクール | 11 / 5 | 第三回学校説明会 |
| 9 / 19 | 付属生徒 東海大学オープン
キャンパス | 11 / 12 | 第一学年保護者会 |
| 9 / 28 | 体育祭 | 11 / 19 | 第四回学校説明会 |
| 10 / 1～2 | 菅生祭 | 11 / 20 | 吹奏楽部定期演奏会 |
| 10 / 10 | 第一回学校説明会 | 11 / 20 | 吹奏楽部定期演奏会 |
| 10 / 13 | 開校記念式典 | 11 / 28～12 / 2 | 第五回学校説明会 |
| 10 / 25～28 | 定期考査C | 12 / 15～20 | 第二学年修学旅行 沖縄 |
| 10 / 29 | 第二回学校説明会 | | 定期考査D |

菅生 STEAMチャレンジ (5)

STEAM教育 ⇒S(Science 科学)、T(Technology 技術)、E(Engineering 工学)、A(Art 芸術)、M(Mathematics 数学)
このコラムでは、菅生学園の各園・校が取り組む様々な特徴あるSTEAM教育をご紹介します。
今回は菅生高校のSTEAM教育のインフラとなるICT教育と、その活用例として英語科での取り組みを紹介します。
ICT教育については染谷博文先生、英語科のICT活用については総合進学コース谷野龍太先生、河野一昭先生、岩田典子先生にお話をうかがいました。

菅生高校では、BYOD (Bring your own device 個人のPCやタブレット、スマートフォンを授業に活用すること) によりChromebookを導入しています。今年で4年目を迎え、ふだんの授業はもちろん、委員会活動・クラブ活動にも幅広く利用しています。

高校では100台のタブレット (i-Pad) を2016年度に予算化、授業に活用してきました。現在ではChromebook端末を1人1台整備して、さらなるICT教育を行っています。

先生方もChromebookと親和性の高い「Google Workspace for Education」をクラウド上で利用して、日々Classroomを通じて授業支援を行ってきました。2018年度からは、複数回の教員研修や他校の視察を積極的に行い、Chromebook導入に向けて研鑽を積みました。

現在では、主要科目はもちろん、体育・家庭・芸術・情報といった実技教科でも日常的にICT教育を行っています。このような先進的な取り組みが評価され、昨年度は「Google for Education (現在はGoogle Workspace for Education) 事例校」に認定され、さらに「学校情報化優良校 (日本教育工学協会)」にも認定されました。1つの学校が同時に2つの認定を受けているのは、全国でも10校程度しかありません。

新型コロナウイルス感染拡大による休校期間中、1・2年生はChromebookを、3年生は個人のスマートフォンやタブレットを使ってリアルタイムのオンライン授業を受けたり、配信された動画視聴・配信課題への取り組みを行いました。保護者面談もオンラインで実施し、現在でもオンラインでの面談は随時行われています。こうした取り組みが教員の時間的な余裕を生み、働き方改革にもつながっています。

教員のグループウェア上にはICT関連のスレッドが複数あり、新サービスに関する情報や授業へのICT活用例など、互いに情報を共有することで、情報交換を常に行い、先生方どうしの学びあいも始まっています。授業ではGoogleのClassroomで予習プリントを配布し、事前に学んだ事柄をもとに授業が進んでいくので、予習をすることが前提です。必然的にグループワークや資料のまとめ・発表といったアクティブな授業形態が盛んにおこなわれているのが菅生高校の特徴です。また課題がクラウド上にアップされているので、生徒は自宅でも学習に取り組めることがメリットになっています。このように、生徒が主体的に授業へ参加する雰囲気があるので、学力も目に見える形で向上しました。

保護者の皆さんへの連絡は一斉メールで行い、用紙で配布する際には、配布した案内がメールを通じて流れるので、その点でも、学校教育の安心感につながっています。

ICT教育の取り組みが評価されています



英語科のICT活用

本校では自学支援ツールとして2018年度からインターネットを介して学ぶ対話型デジタル教材「すらら」を導入し、生徒一人ひとりにあった学習を実現しています。部活動が盛んな本校では、家庭学習時間の確保も課題となりますが、「すらら」を活用することで、この課題解決につながっています。「すらら」を活用し、「テスト→AIが評価→個別最適化された課題配信を自学→授業で進捗確認」というサイクルで自学に取り組み、全員が100%課題をやりきるように確認しています。一人ひとりの生徒が達成感が味わえるように、レベルにあったやりきれる量に課題を調整し、課題が終わらない生徒に対しては放課後にフォローアップを行っています。フォローが必要な生徒は少なくなり、指定された課題以上に取り組む生徒もいます。「すらら」の取り組みは家庭学習のよい動機付けになっています。このような取り組みによって、GTECスコアが1年間で平均100点アップし、ベネッセから表彰されました。

Monoxer導入では研修会が行われました



このほかに、2,3年生では英単語学習のためのアプリ「タンゴスタ」を活用、1年生では単語帳+課題配信サービスのMonoxerを活用しています。Monoxerは国語科でも活用され、基礎学力定着度テスト準備に寄与しています。

科目によっては小テストはGoogleフォームで実施し、Writing課題もオンラインで提出、音読テストはGoogle Workspace for Educationを活用して実施することで、振り返りを行うことができるようになっています。

大学受験だけでなく、その先の大学での学び、さらにその先の将来につながる英語力を一人ひとりが身に付けられることを目指して、ICTを効果的に活用しています。

高校では、キャリア教育としてInspire Highというサービスを活用しています。Inspire Highは若者に向けて、普段触れ合う機会の少ないアーティストや起業家、研究者やビジネスパーソンなど第一線で活躍している大人とのライブ配信セッションを実施するものです。台湾デジタル発展部トップオードリー・タン氏とのセッションもあります。こうした、国境を越えて、学びの可能性を広げられるのもICTを活用すればこそ。今後もよりよい学びにつながる活用方法を模索していきます。

菅生のひとこま (4)

「菅生のひとこま」では菅生学園のさまざまな場所をご紹介します。第4回は菅生高校キャンパスの正勝坂です。



正勝坂は、高校の初年度に管理(用務員)をされていた宇田川さんが、菅生高校に隣接する正勝神社にちなんで命名しました。正勝神社には、硬式野球部などが必勝祈願に訪れています。四季を通じて美しい風景で私たちを和ませてくれる正勝坂です。